



青い春の
空の下で



上月ゆひろ

あの子のために

愛しい愛しい

あの子の為に

星を一つ

星を二つ

夜の宝石箱のなかから

とってあの子にあげましょう

可愛い可愛い

あの子の為に

花を一つ

花を二つ

夏に向日葵 冬には六花

咲かせてあの子にあげましょう

遺書

たとえば僕が死んだら
あなたは泣いてくれますか？

どうか泣かないで下さい
あなたが涙を流すほど
価値のある男じゃありません
それに何より
あなたに涙は似合わない

それでももし
泣いてくれると言うのなら
僕はこの身をもう少し
永らえさせようかと思えます

とり

「あなたはだあれ？」

「わたし」

と彼女はいいました

「わたしはわたし

あなたじゃないもの」

「名前はないの？」

「わからない」

と彼女はいいました

「うまれたときから わたしはわたし

だから 名前は必要ないの」

「あなたは鳥だね？」

「ちがうわ」

と彼女はいいました

「確かにわたしは空を翔べるけど

『鳥だ』って名付けられた覚えはないもの」

「では、あなたは一体だあれ？」

「わたし」

と彼女は、少々怒り気味にいいました

「わたしはわたし

あなたじゃないもの

わたしがそう思っている限り

わたしはわたし

あなたと違うもの」

Dreaming

ゆめをみていたのはわたし？

それともあなた？

それはわたし

あなたはわたしのゆめのなか

だから わたしがめをさましたら

あなたはきえてしまうの

パッてね

それはあなた

わたしはあなたのゆめのなか

だから あなたがめをさましたら

わたしはきえてしまうの

だから めをさませないでね

わたしがずっとあなたといられるように

ずっと あなたとゆめをみていられるように

道程

僕の前に道がある
僕のあとにも道がある

僕の後ろの道と
君の後ろの道は
ちがう道だね
僕の前道と
君の前道も
ちがう道だね

だけど、僕らは
一緒に歩いていけるね
これからもずっと
手をつないで
一緒に歩いていけるね

シーラカンス

夢を 見ていた

私は逃げているの

どうして？

どうして？

追われているのよ

何に？

何に？

あれは 魚

大きな 魚

夢の私を食べようとしているの

私の夢を食べようとしているの

はやく

はやく逃げなくちゃ

捕まったら大変だわ

さあ はやく逃げなくっちゃ

さあ はやく行かなくっちゃ

私は 走っていた

夢の中で

一生懸命走っていた

だけど 魚は速くって

どんどんどん 近づいてきて

どんどんどん 追いついてきて

とうとう

私は食われてしまった

夢の私は食われてしまった

私の夢は食われてしまった

目を覚ました

私は追いかけているの

何を？

何を？

あの魚を

夢の私を食べてしまった

私の夢を食べてしまった

あの魚を

追いかけてるの

探して

探して

あの魚を

つかまえて

つかまえて

夢の私を

私の夢を

さあ はやく行かなくっちゃ

見失わないように

さあ はやく追いかけてなくっちゃ

私は 走っていた

現実(いま)も

あの魚を追いかけて

私の夢を追いかけて

今も

私は 走っている

再生

お金をつぎ込めば

総て治るのですか？

瓦礫の下からか細い声で

少女が助けを求めている

「……水を下さい……」

汚れた空から降る雨で

荒れた大地は潤うのですか？

お金をつぎ込めば

総て治るのですか？

鉛玉の雨に撃たれて

血を流した少年が叫ぶ

「助けて……！」

汚れた海から取り出した水で

乾いた砂漠は潤うのですか？

人

木々

創造物

都合良く作られ

都合良く壊されていったものたちは

お金をつぎ込めば

総て治るのですか？

School

今日も俺は学校へ行く
自転車を漕いで
なんのために？
なんのために？

狭苦しいうさぎ小屋に詰め込まれて
小さな脳に詰め込まれた知識は
DRAMよりも質悪く
片っ端から消えていく
ディスクへ書き込むべきは何か
判らない莫迦が多すぎて

「楽しい？」
ああ、どうか笑ってくれ
所詮は俺も
同じ小屋のうさぎ

逃れられないのは十分承知してるから
いっそこの心ごと機械仕掛けにしまおう

プラス・マイナス 右・左
有るか無いか 0か1か
2進数で割り切れるなら
人間もデジタル

ああ、なんだ、なら
勉強なんていらんじゃん

俺は今日も学校へ行く
自転車を漕いで
なんのために？
なんのために？

鳥籠

リンと背筋を伸ばして
いつだって僕には背中を向ける
曇りのないその瞳の中には
僕の事なんか映ってないんだろう？

鈴の鳴るような明快な声に
魅了される男は五万といて
君にしてみれば僕だって
その他大勢の一人にすぎないのかい？

だけど

たまには「辛いよ」って音を上げてもいいよ
時には「疲れた」って泣きついたっていいんだよ
君を全身全霊で愛してる男がここにいるんだから
もっと僕(こいつ)を利用してやってよ

そんなに毎日神経張り詰めてて
ストレスたまってんじゃない？
爆発する前に発散しようよ
朝までだって付き合うからさ

今にも泣き出しそうな顔で
平気だなんて笑うなよ
君一人も支えられないほど
軟な男じゃ僕はないつもりだよ

自由に空へ翔ける君を
閉じ込める鳥籠に僕はなれない
だから窓はいつも開けておくよ
いつだって帰っておいで

いつだって 帰っておいで

しあわせ

あったかい草の上で
両手いっぱいひろげて
おひさまの光をたくさんあびて
すべてを優しく包みこむように

ほら

あなたはこんなにも近くにいる